



## めら さいしゅん 布良星/西春星

1月31日のまるちたいけんドームだよりでカノープスのことを紹介しました。カノープスとは、西洋では神話に登場する水先案内人(航海のためのガイド)の名前です。日本でも、この星が見えるとその方角はほぼ南だと知ることができますので、航海においては重要な星だったようです。



館山市布良地区のバス停。当館解説員齊藤美和が2006年に撮影

カノープスのことを「布良星」と呼ぶ地方があります。また「メラ」という地名は太平洋側の海に面した岬のようなところに九州から関東にかけて点在しています。「米良」や「妻良」など書き方は異なりますが、沖縄県、宮崎県、高知県、和歌山県、静岡県、千葉県と連なっています。どこが最初だったのか分かりませんが、南から北へ「メラ星」を頼りに、黒潮に乗ってやって来た人たちが、行きつく先々に「メラ」という地名を付けたのではないかという説があります。本当のことは分かりません。

東京から近いところでは、房総半島の先端、館山市に布良というところがあります。ここ「布良」には地平線近くに見える赤いカノープスは、「遭難して亡くなった漁師の魂が星になって光っているのだ」という言い伝えがあります。また、隣の南房総市には、海の安全を祈った江戸時代の僧侶西春法師が星になったという伝説もあります。そのため、このあたりでは、カノープスを西春星と呼んでいました。西春法師の塚や入定窟(飲食を絶って念仏を唱えながら亡くなった場所)なども残っています。

カノープスにまつわる話は「メラ」という地名とともに全国に数多くあるようです。地方を旅してみたら、その土地の星にまつわる話や言い伝えを聞いてみるのはとても楽しいことです。

2022年2月21日記(解説員：田部 一志)